

回覧	<稲むらの火の館>	第34号	年に一度は
広川町	やかた だより	H25・1月	館に行こう！

○平成25年新年おめでとうございます。

お掃除ボランティア、生け花ボランティア、学習ボランティア、そして、語り部サークルの皆さんご苦労様でした。

本年もよろしく願い申し上げます。

館にとって、平成24年は慌ただしく過ぎていきました。当初、今年は来館者数も減少していただろうと予測していましたが、蓋を開けてみると10月11月の行楽シーズンも何と平成23年以上の来館者数がありました。

防災は今、世の中の関心事の一つです。私たちも今しっかりと足元を見つめ直し、梧陵翁の残してくれた偉業と精神を継承していく必要があります。

町民の皆様には何かとご迷惑をおかけすることもあろうかと思いますが、これからも何とぞご協力の程よろしくお願い申し上げます。

また、濱口梧陵記念館は地域の交流センターとして建てられています。町民の皆様にもドンドンとご利用して頂き、身近な梧陵記念館にして頂きたく思っています。お気軽にお立ち寄り下さい。

稲むらの火の館
館長 熊野 享

○今、やかたでは・・・

「わあ！ガラス入ってたんだねえ・・・、ピカピカになっているのでわからなかった。」

お掃除ボランティアさんがいつも磨いてくれているので、玄関上り戸のガラスに手が激突、手を振りながら発したお客様の言葉です。

生け花が飾られ、きれいに清掃されているのでお客様にお褒めの言葉を頂くことが

多いです。

*館の3階ガイダンスルームでは団体のお客様にお話をしています。

①濱口梧陵について

②津波（自然）災害から身を守るために（①と②で約20分、名称をガイダンスから講話（lecture）に変更）

など、現在平成25年バージョンを作成中です。

○お客様の声コーナー

*和歌山市に住んでいますが梧陵さんのことを知りませんでした。今日見学してみても感激しました。同じ和歌山県民として誇らしい気持ちでいっぱいです。（女性の方）

*福祉委員をやっています。狭山市では、ひとり暮らしのお年寄りに毎年防災グッズを配布しています。1年目は防災グッズ用の袋を2年目からは毎年違ったグッズをお渡ししています。防災用のパンもいろんな味があっていいですね。

「大阪狭山市からお越しの団体様」

○濱口梧陵記念館（地域交流センター）について

地域交流センターは各種サークル活動や子ども会活動、会議、研修会など住民の相互交流を目的とした施設です。お気軽にご利用下さい。



茶道教室練習風景

詳しくは、「稲むらの火の館」までお願いします。

（☎64-1760）

裏もご覧下さい。

2面 広川町	<稲むらの火の館> ヤカただより	平成25年 第34号	いざという時 あなたは！
-----------	----------------------------	---------------	-----------------

<防災:災害に備える⑥> ～大雨から身を守る～

平成23年から24年にかけて、様々な災害に襲われました。水害も多様な形で表れはじめています。

平成23年は東日本大震災（地震・津波災害・放射能汚染）、7月には新潟・福島豪雨、これは前線の停滞による集中豪雨です。そして、9月の紀伊半島を襲った台風12号による長時間の集中豪雨、これにより堤防の決壊や河川の氾濫、土砂災害等々、甚大な被害が出ました。そして、平成24年は異常な積雪、春の台風並みの暴風雨。

豪雨はまた、強い風と雷を伴うこともあり、豪雨の増加とともに強風や落雷による被害も増えています。

こうした集中豪雨が発生する原因として、地球温暖化の影響が指摘され、日本のどこで発生してもおかしくない状況にあると思います。以前にも増して、危機感を持って、素早い避難が命を守ることになります。

<雨の降り方と強さの目安>

1時間雨量 (mm)	10~20 未満 (やや強い雨)	20~30 未満 (強い雨)	30~50 未満 (激しい雨)	50~80 未満 (非常に激しい雨)	80 以上 (猛烈な雨)
人への影響	地面からの跳ね返りで足元が濡れる。	傘をさしていても濡れる。		傘は全く役に立たなくなる。	
屋外の様子	地面一面に水たまりが出来る。		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	
災害発生状況	この程度の雨でも長く続くときは注意が必要。	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる。	山崩れ、崖崩れが起きやすくなる。都市では下水管から雨水があふれる。	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する、土石流が起こりやすい。	雨による大規模な災害の発生するおそれが高く、厳重な警戒が必要。
車に乗っていて	ワイパーを速くしても見づらい。		高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが利かなくなる。(ハイドロブレーニング現象)	車の運転は危険	

出展：気象庁発行「大雨や台風に備えて」

※冠水時走行時の水位による自動車の挙動の目安。

①タイヤ半分（およそ10cm）：ブレーキに泥水が入ってくるためブレーキの利きが悪くなる。

②ドアの下端から10～20cm上：車は機密性が高いため、この水位になると浮き出す。

③ドアステップ/床面（およそ30cm）：これ以上になると、エンジンが壊れる可能性がある。

車検証を持って速やかに避難する。

④ドアの半分：水圧でドアが開けにくくなり、ドアからの退避が困難になる。